

# 蒼潮

第25号

(平成29年3月)

長崎地区漁業士会

## 〈長崎市内 水産教室の開催〉

長崎地区漁業士会では、1月18日に長崎市内の精道三川台高等学校において、1年生14名を対象として、漁業士4名の参加の下に長崎の水産業についての講義および調理実習の水産教室を開催しました。

講義では、漁業士が使用している漁具を見せながら漁業について説明したほか、地産地消について説明し、長崎の水産物の地元消費をお願いしました。

調理実習では、漁業士がハマチの3枚おろしを実演した後、各生徒がマアジを3枚おろしにし、カレー焼きに調理したほか、ハマチを刺身にしました。

男子生徒だけの参加でしたが、最初は慣れない3枚おろしに苦心惨憺の生徒達も次第に手際が良くなり、魚をさばく楽しさを知ってもらえたようです。今後も、長崎の水産業についての関心や、自ら料理をすることでより一層の魚を食べてもらえるよう、今後も内容を検討しながら水産教室を開催していきます。



刺網の説明（中央、道下漁業士）



三枚おろし実演（小川漁業士）



三枚おろし指導（山下漁業士）



漁業士を交えての試食（川邊漁業士）



カレー焼き



中骨せんべい



刺身

＜水産教室の開催＞

県北地区漁業士会では、若い世代への魚食普及や水産業に親しみを持ってもらうことを目的に、毎年、管内の小中学校等で「水産教室」を開催しています。

平成28年11～平成29年1月に小中学校など10カ所で、児童、生徒を対象に水産教室を行い、魚食の普及活動及び地元水産業への理解を深める活動を行いました。

	日時	場所	対象	講師
1	H28.11.3	平戸市南部中学校	中学3年 24人	山川漁業士
2	H28.11.9	生月中学校	中学3年 31人	山市漁業士
3	H28.11.14	楠栖小学校	小学6年 25人	永安漁業士
4	H28.11.18	青島小中学校	中学1～3年 3人 小学5～6年 5人	柘屋漁業士 川下漁業士
5	H28.11.30	度島小中学校	中学1～2年 18人	福畑漁業士 古川漁業士
6	H28.12.7	相浦小学校 高島分校	小学1～6年 10人	内野漁業士 長尾漁業士 松崎漁業士
7	H29.1.19	中野中学校	中学1年 8人	綾香漁業士 角田漁業士
8	H29.1.20	津吉小学校	小学5～6年 24人	山川漁業士
9	H29.1.24	野子小中学校	小学5～6年 14人	綾香漁業士
10	H29.1.25	小佐々中学校	中学1年 28人	永安漁業士



## ＜県北産水産物の消費推進活動＞

県北地区漁業士会では県北各市の水産物を消費促進するイベントを毎年開催しています。今年度は、平成 28 年 11 月 3 日にひらど新鮮市場の 16 周年大創業祭に参画し、平戸市の水産物を PR しました。

当日は坂野漁業士が養殖している「平戸なつ香ぶり」や地元で養殖されたマグロ、藤永漁業士が定置網で漁獲したシイラの解体ショーを実施し、刺身を無料配布しました。また、角田漁業士が製造しているあげ蒲鉾の実演販売をするなど地元水産物の消費拡大に向け PR しました。

解体ショーには大きな人だかりができ、解体が進むたびに歓声が上がりました。

このイベントにはたくさんの方が来客し、水産物を PR することができました。県北地区漁業士会では今後も引き続き水産物を PR し、県内外での消費拡大を図っていきます。



〈壱岐商業高校における水産教室の開催〉

平成28年12月8日、水産業への理解と魚食普及、漁業就業促進を目的とし、壱岐商業高校3年生95名を対象に水産教室を開催しました。

今回の水産教室は、箱崎漁業協同組合、漁協青壮年部、漁業士会が共同で実施し、初めに箱崎漁業協同組合の西組合長が魚の捌き方を説明した後、生徒の皆さんは8つの班に分かれ、箱崎漁協が提供した朝獲りのブリやイサキを使って刺身の調理実習を行いました。各班には漁協青壮年部員や漁協職員、漁業士がそれぞれ指導に付いており、漁業士からは島本漁業士、住吉漁業士、西正寛漁業士、西貴司漁業士の4名が参加し、慣れない手つきの生徒さんを優しくフォローしていました。出来上がった刺身は生徒の皆さん、指導者で一同に試食を行いました。自分達で調理した刺身に生徒の皆さんは舌鼓を打っていました。

水産業普及指導センターからも漁業の魅力を伝えるお話をさせていただくなど、生徒の皆さんが水産業に関心を持ち、就業先の選択肢の1つとして考えてもらえる重要な場と感じました。

今後も学校側のご理解を得て、取組を継続したいと考えています。



魚の捌き方指導①



魚の捌き方指導②



魚の捌き方指導③



魚の捌き方指導④

## 対馬地区漁業士会

### 〈対馬市美津島町 水産教室の開催〉

対馬地区漁業士会（会員27名）では、平成29年1月31日（火）に対馬市美津島町の大船越中学校において、全学年43名を対象に、対馬地区漁協女性部連絡協議会、対馬市食生活改善推進協議会美津島支部の協力を得て水産教室を開催しました。

水産教室では、地元美津島町の槇野青年漁業士による定置網漁業の仕組みや漁業に関する苦労話などの体験談を生徒に語ってもらいました。

その後、家庭科室で対馬地区漁協女性部連絡協議会犬東部長の指導のもとマアジのさばき方と調理の実習を行い、マアジのかば焼きを作りました。

また、食後には対馬市食生活改善推進協議会美津島支部豊田部長から「命の大切さ」をテーマに魚のアラを肥料にする方法について講話をいただきました。

大船越中学校の水産教室の内容については、地元ケーブルテレビで放送されました。



水産教室「対馬の水産業について」



槇野青年漁業士の紹介



槇野青年漁業士による定置網の仕組みについて



犬東部長によるさばき方の実演



豊田部長によるさばき方の指導



生徒たちによるさばき方実習



かば焼き調理中



かば焼きの完成

☆ 対馬地区漁業士会では下記の学校でも水産教室を実施しました。

○ 鶏鳴小学校 平成28年10月20日(木)



○ 雞知中学校 平成28年12月8日(火)





## ＜対馬地区漁業士会協議会及び学習会の開催＞

平成29年2月17日（金）、厳原町において、対馬地区漁業士会の協議会と学習会を開催しました。

漁業士会協議会では、今年度福岡市で実施したPRイベントなど活動報告および来年度の活動計画について協議しました。

学習会には、漁業士など38名が参加しました。県総合水産試験場の海洋資源科 高木科長と企画開発推進室 水田主任研究員から、総合水産試験場の最近の成果やクロマグロ及びスルメイカの資源動向などについてお話を伺いました。



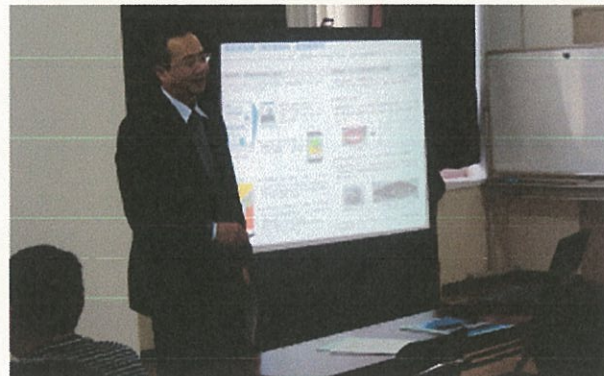
対馬地区漁業士会協議会の状況



水産課伊藤技師による魚礁の説明



学習会の様子



総合水産試験場 水田主任研究員  
「総合水産試験場の成果について」



総合水産試験場 高木科長「クロマグロ及びスルメイカの資源動向について」



## <情報発信について>

対馬地区漁業士会は、様々な媒体を通して、水産業の魅力を発信していきます。その活動の一環として、早田指導漁業士が対馬で漁獲されるアカムツの魅力を紹介する番組に出演しPRを行いました。

### ○「月曜から夜ふかし」(2月末に放送)

月曜深夜に日本テレビ系列で放送中の「月曜から夜ふかし」の人気コーナー「マツコにとれたてを食べさせてあげたい件」にて、対馬市上県町のアカムツを紹介した番組が放送されました。

内容として、アカムツ延縄の漁模様のほかに、早田指導漁業士がアカムツ料理4品を提供する様子が放送されました。

### ○「食彩の王国」(テレビ朝日系列にて3月11日関西地区で放送)

対馬の新たな名産品として注目されている絶品のノドグロの干物の開発秘話、全国にアピールするため早田指導漁業士が行っている取組や秘策が紹介されました。



早田真路指導漁業士



## 長崎県漁業士連絡協議会

### 〈第19回 全国青年漁業者交流会長崎県大会への出場〉

去る平成29年1月13日に、長崎県漁協会館において開催された、第19回全国青年漁業者交流会長崎県大会において、上五島地区漁業士会から上五島町漁業協同組合 濱迫睦紀青年漁業士が「ハモ漁業を確立させるために」と題して発表し、優良賞を受賞しました。

アマダイ・キダイ延縄を操業している、濱迫漁業士は夏季の漁閑期にも延縄に混獲されるハモに着目し、漁場の開拓と漁具の改良、市場価値を確保する出荷形態の確立に取り組みました。結果として、築地市場等で高値が付くようになり、夏場の漁閑期を補う漁業としてハモ延縄漁業が確立できたとの成果報告がありました。

残念ながら、全国大会への出場はなりませんでしたが、今後、地域での取組の拡大が期待されるすばらしい内容でした。

また、最優秀賞は「日本一のクロマグロ養殖を目指して～協業による経営力強化の取組み～」と題して美津島町漁業協同組合、トコの華生産者協業体の財部重輝氏が、優秀賞として「宝の海を未来に届けたい～婚活と漁業体験による地域活性化と担い手対策～」と題して新松浦漁業協同組合青年部新星鹿支部の荒木大輔氏が、特別優良賞は『長崎県野母崎地区の水産業を守る②～天然アマダイの不可食部を用いた「鯛めしのもと」の開発』受賞しました。

なお、全国大会となる、平成29年3月1～2日に東京都で開催された、第22回全国青年・女性漁業者交流大会ではトコの華生産者協業体の財部重輝氏が農林中央基金理事賞、新松浦漁業協同組合青年部新星鹿支部の荒木大輔氏がJF全国女性連 JF全国漁青連会長賞を受賞しました。



発表する濱迫青年漁業士



表彰後の記念撮影の様子

# 雇用型漁業育成支援事業について

## <事業概要と進捗状況>

### 1. 事業について

平成28年度から、「雇用型漁業育成支援事業」により、漁村地域の重要な雇用の場となっている定置網・中小型まき網漁業について、生産設備の導入・改善や加工・流通・観光等を一体的に取組む優良な経営モデルづくりを進めています。

### (新)雇用型漁業育成支援事業費

#### 事業の目的

【資源管理課 予算額72,817千円】

○定置網漁業、中小型まき網漁業について、生産設備の導入・改善や加工・流通・観光等を一体的に取組む優良な経営モデルづくりを推進し、安定した雇用の場を確保。

#### 事業の概要

○地域雇用型ビジネスモデル構築推進・普及会議の運営経費  
・新たなビジネスモデルの検討・経営改善計画の策定を支援(5地区) 補助率2/3

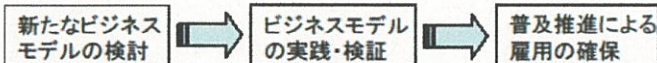
○経営モデルづくり交付金  
・各経営体の経営の多角化に要する経費へ補助  
補助率1/2 補助金上限2,000万円(1~2年間)

#### 【補助対象経費】

高鮮度保持による販路拡大、共同販売、共同出荷、漁獲物の自家加工、生産基盤の整備等



#### ○事業の流れ



### 2. 雇用型漁業ビジネスモデル計画

初年度は、定置網では五島市久賀島地区及び平戸市中野地区の2地区2経営体、小型まき網では佐世保市の1地区1経営体でビジネスモデル計画を策定しました。

経営モデルづくりについては、県、市町、優良経営を目指す経営体など関係者が一体となって、経営強化や従業員安定確保に向け、地域の雇用型漁業や参加経営体自身が解決すべき課題を整理し、課題解決に向けた取組の方向性や具体的取組内容、目標値等を『雇用型漁業ビジネスモデル計画』として取りまとめています。

計画に参加する経営体は、今後3カ年の計画期間で、目標達成及び地域におけるモデル経営体と成るべく各種取組を進めていきます。

県では計画の達成に向け、必要となる施設整備や販売拡大等の取組について同事業で支援を行う予定です。

※3地区のビジネスモデル計画の取組内容は、次頁のダイジェスト版を参照

# 五島市久賀島地区定置網漁業ビジネスモデル計画

【策定：五島市雇用型漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

## 背景

五島地域において、定置網漁業は一般漁業における総水揚量14,874 tの約44% (6,552 t) を占める基幹産業であり、雇用型漁業として島内水産業において大切な役割を担っている。魚価低下・水揚量減少など、水産業界において多くの課題が残る中、限られた資源を有効に活用し、観光など新しい分野から収入を得る収益性の高い漁業モデルを確立する必要がある。

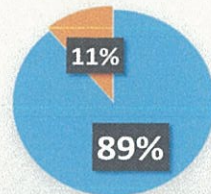
## 課題



1. 漁獲量の減少

- ・ 餌資源の減少による漁獲量減 (H20 147 t → H26 116 t)
- ・ 片口片落しの定置網構造のため漁獲機会を失っている現状

モデル経営体の漁業経費と営業利益割合



■ 経費 ■ 営業利益

2. 経費の割合が高い経営

- ・ 定置網漁業は網の補修・洗浄作業にかかる経費が高く、経費を削減できる新しい経営を行なう必要有り



3. 労働力の不足

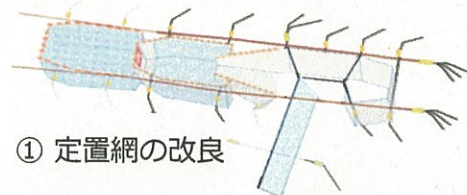
- ・ 島内外から漁業就業者を確保できても長続きしないケースが多く、魅力的な雇用条件を確立する必要有り

## 取組の方向性

漁獲量の増加と「獲れる魚を高く売る」・「観光など新たな分野からの収入を確保する」をテーマにモデル計画を実施する。

## 計画内容

- ① 改良型定置網の導入
    - ・ 片口構造から両口構造へ改良 → 漁獲量を約 1.2 倍に向上
    - ・ 箱網の目合い拡大 → 漁獲物選別作業簡易化・労力削減
    - ・ 未利用魚の活用 (カンパチ種苗)
  - ② 直接販売体制の強化
    - ・ インターネットを利用した直販体制の強化 → ネット販売・直売店舗の売り上げ増
  - ③ 観光定置の展開
    - ・ 修学旅行生対象の観光定置を展開 → 年間120名の呼び込み
  - ④ 雇用条件の改善・確保
    - ・ 就業時間の削減等労働条件の改善
    - ・ 豊漁時の特別手当の支給 → 従業員の安定的確保
- ※①～③部分で県支援事業活用予定



① 定置網の改良



② インターネットを利用した直販



③ 観光定置体験

～ 地域を牽引するビジネスモデルへ ～

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 労働環境改善と雇用の確保

## KPI (重要成果指標)

- 付加生産額 (営業利益・人件費・減価償却費)
- 雇用者数

基準年 (直近3年平均)	H31 (目標年)
3,706 万円	5,441 万円
6 人	8 人

# 平戸市中野地区定置網漁業ビジネスモデル計画 【ダイジェスト版】

## 背景

【策定：平戸市雇用型漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

平戸市において、定置網漁業は同市の一般漁業の総水揚量7,849 tの約40%(3,229t)を占める基幹産業である。標記ビジネスモデルを実践する経営体は、シイラやトビウオの水揚量が好調で、経営は安定しているが、当該漁業が「待つ漁業」であるため、魚群の回遊に水揚が左右され、好不調の波がある。よって、今後とも安定した経営を維持していくためには、販路の工夫や観光等の組み合わせによる収益性の高いビジネスモデルを確立し、実践していく必要がある。

## 課題



### 操業回数の限界

現在使用している漁船は装備面などから、3漁場で1日各2回操業が限界である。



### 高鮮度処理

使用している角氷は魚体に傷が付きやすく、また、魚種によっては冷やしむらが生じるなど鮮度処理が不十分。



### 本業と観光の両立

観光客の伸びによる収益増の期待が大きいですが、漁業繁忙期の今以上の受入れは操業に支障を与える。漁業繁忙・休閑期に合わせた観光受入体制の整備や人員確保が必要。



### 人員不足

不定期な休日、近くに住宅がないなど、処遇面の改善による従業員の安定確保が必要。

## 取組の方向性

「水揚量の増加」「高鮮度処理による魚価の向上・販路拡大」「世界遺産候補地と連携した観光定置」等の組み合わせによる収益向上及び雇用の確保を目指す。

## 計画内容

- ①作業効率の良い新船を導入
    - ・盛漁期の操業回数を2回/日から3~4回/日に増  
→水揚量の増加 (317t → 367t)
  - ②フレーク状アイス製氷機の導入
    - ・高鮮度・高品質処理の徹底  
→魚価上昇(5%増) ※重要魚種シイラをメインに
  - ③首都圏等との相対取引実施
    - ・未利用魚(少量多種漁獲物)を高鮮度処理し首都圏等へ出荷  
→販路拡大・収益増 (0箱(0円) → 250箱(250万円))
  - ④世界遺産候補地と連携した定置網体験
    - ・漁閑期で観光客数が多い7、8月に限定して世界遺産候補地周遊と観光定置のセット商品を企画。漁業繁忙期は受入数を漁業に支障を与えない範囲で抑制  
→夏場の観光客受入増による収益向上  
(7、8月 490名 → 890名(年間1,150名 → 1,440名))
  - ⑤就労環境の改善・雇用の確保
    - ・給与水準の向上、休日の増加、雇用の確保  
(正規雇用者数 6人 → 7人)
- ※①で国支援事業、②・③で県支援事業を活用予定

## 地域を牽引する ビジネスモデルへ

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 就労環境改善と雇用の確保

## KPI (重要成果指標)

○付加生産額  
(営業利益・人件費・減価償却費)  
○正規雇用者数

基準年(直近3年平均) H31(目標年)  
49,035 千円 → 58,847 千円  
6 人 → 7 人

# 佐世保市小型まき網漁業ビジネスモデル計画 【ダイジェスト版】

## 背景

【策定：佐世保市漁協小型まき網漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

佐世保市内6漁協の水揚げは約8万t（金額149億円）であり、水揚量の9割がまき網漁業による。主な漁獲物であるカタクチイワシは主として加工原料や養殖用餌料として利用されているが、カツオー一本釣りの活餌としての需要が高まる中、当地区は産地として注目されている。

ビジネスモデル参加経営体は活餌用にカタクチイワシの漁獲・販売を行っているが、更なる収益性向上のため経営の多角化等の経営改革が必要となり、モデル計画策定に取組むこととなった。

## 課題



**蓄養量の限界**  
カタクチイワシの蓄養可能量が小さく能力を越えると休漁



**休漁期の収入源の確保**  
カタクチイワシの漁獲がない夏場は休漁（作業員は非年間雇用）



**労働環境の改善**  
網の洗浄は非常に重労働



**新たな販路開拓**  
カツオー一本釣りの活餌以外の販路なし

## 取組の方向性

収益性の改善を図るためストック機能を高めるとともに、休漁期の代替魚種の開発による周年操業体制の確立や作業負担の軽減が必要

## 計画内容

- ① **蓄養筏の増設（5台→15台へ）**  
→蓄養能力の向上による休漁解消と販売量増（409t⇒494t）
- ② **カタクチイワシ漁のない7～9月は養殖用種苗として小型サバを漁獲**  
→周年操業による新たな収入源の確保（実績なし⇒3t）
- ③ **網洗浄機器の導入**  
→労働環境の改善（作業負担・作業時間減）
- ④ **水族館への鑑賞用カタクチイワシの売り込み**  
→新たな販売先の開拓（実績なし⇒2t）  
※①、③、④部分で県支援事業活用予定

地域を牽引する  
ビジネスモデルへ

- ◇ 収益増による安定した経営体制の確立
- ◇ 安定した雇用と労働環境の改善
- ◇ 経営の多角化



## KPI（重要成果指標）

	H27(基準年)	⇒	H30(目標年)
○付加生産額 <small>（営業利益・人件費・減価償却費）</small>	2,113万円	⇒	3,791万円
○新たな雇用	9人	⇒	11人